

実施計画事業名		廃棄物減量推進事業		評価対象年度	平成 23 年度		
評価担当部署		生活福祉部衛生課		課長(主幹)名	田端 義親		
総合計画体系	分野	3	環境・生活				
	政策	3	環境問題への積極的な取組				
	施策	2	循環型社会の形成を図ります				
	関連施策						
現状と課題	廃棄物の減量及びリサイクルの推進、地域の環境美化など、廃棄物行政として市民との関わりのある事業全般を実施している。						
目的	地域の清掃美化活動及びごみ処分場の延命化の周知活動を通じ、3Rを推進する意識の醸成によって、ごみ減量化を目指す。						
施策展開の	資源物集団回収奨励事業・ごみステーション設置助成事業は事業の継続・拡充を図る。 有料化実施のための有料指定ごみ袋製作にあたっては、平成23年度生ごみ分別用の指定袋を製作する。						
成果指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度
	市民一日一人当りの家庭系ごみ排出量		g/人・日	目標	773	767	691
説明	(家庭系ごみ総排出量(t)/人口×365日) × 1,000,000			実績	802	776	
活動指標	名称		単位		22 年度	23 年度	25 年度
	減量化推進委員の数		人	目標	300	320	353
	説明	市が委嘱している減量化推進委員の総数 (各年度3月31日現在)			実績	295	295
	広報・啓発活動の回数		回	目標	20	20	20
	説明	廃棄物減量化のための啓発活動の回数			実績	35	77
	不適正排出の警告件数		件	目標	↘	↘	↘
	説明	不適正排出に対する警告シールの添付件数			実績	25,796	22,686
事業費の実績	名称		単位	22 年度 (決算)	23 年度 (評価年度決算見込)	24 年度 (予算)	備考
	直接事業費(A)		千円	31,061	41,713	33,948	
	国庫支出金		千円	0	0	0	
	道支出金		千円	0	0	0	
	起債		千円	0	0	0	
	その他		千円	25,500	22,600	28,665	
	一般財源		千円	5,561	19,113	5,283	
	この事業にかかる職員数		人/年	1.28	1.40	1.00	
	人件費(B)		千円	8,692	9,736	6,954	
	計(A+B)		千円	39,753	51,449	40,902	
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 平成21年度に稚内市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)を策定。						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	b a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 処分量は、リサイクルやごみの分別、排出抑制を含む各種減量化の結果として得られることから、本事業評価においてはごみ関連事業全体として評価されるべきものと思う。
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要 <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> ごみ排出量は7月からの生ごみ分別に伴い、前年度実績より若干減少した結果となった。 生ごみ分別の開始に伴い住民等説明会のなかでも、再度、ごみの分別、リサイクルを含めた排出抑制の周知、徹底を図り、減量化推進員の協力や活動等により不適正排出(警告シール)件数も3,100件位減少する結果となっており、分別や排出抑制の意識が浸透されているものと考えられる。 今後ともより一層、環境美化への積極的な取り組みを継続し、多くの市民への啓蒙普及活動を図っていきたい。

【2次評価】

成 果	b	細事業の構成	b	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要 <2次評価者の視点からコメントを記入する> 減量化推進員と意識や認識の共有を図り、より効果的な取組を進める。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--